

た知的財産の活用を図る「知的財産権活用支援事業」及び「みえメディカルバレー知的財産活用促進事業」などにより、三重県R S P事業で培われた成果をベースに総合的に取り組むこととしている。

2. 都道府県関連事項

(1) 都道府県が推進する「研究開発コーディネート機能」の整備について

① 県公設試験研究機関の統合と研究開発コーディネート機能の強化

地域における科学技術の振興に関する施策は、地域社会の経済基盤である産業の活性化や新たな産業の創出のみならず、健康、福祉、環境などの地域を取りまく様々な課題に対応し、豊かで快適な県民生活の実現に大きな役割を果たすことが求められている。このため、科技センターでは、地域の課題や分野横断的な研究開発に対応すべく、従来工業分野、農林水産分野、保健環境分野に分かれていた県の公設試験研究機関を平成13年度に統合するとともに、センターの総合的コーディネート機能を総合研究企画部が担うこととした。その結果、地域課題の解決に向けて、複数の分野の研究者が連携して実施する研究開発事業が毎年度数件実施されている。

また、新規研究開発事業の立案のため、大学等の研究者に立案段階から参画を呼びかけて、将来的な研究課題の発掘とその可能性試験を実施する「先導的研究会事業」を進めており、先導的研究会の検討課題から毎年度数件が事業化されている。

さらに、平成18年度から、「競争的研究プロジェクト戦略推進事業」により、総合研究企画部に研究連携コーディネータを1名設置し、国等の競争的資金獲得に向けて、県内大学・企業等と連携して研究プロジェクトの立案を進めるとともに、科技センターの研究成果（特許等）の活用を図ることとした。

② 県単独事業による産学官連携の基盤づくり

平成17年度に産学官連携による科学技術の振興を推進するため県内の大学等高等教育機関、企業、公的研究機関の研究者、技術者、科学技術コーディネータなどが主体となった「みえ研究交流サロン」を設立し、幅広い人的ネットワーク構築や相互の信頼関係を醸成すると同時に、技術交流・連携の促進と共同研究アイデア等の創出を行い、大型研究開発プロジェクトの立ち上げや研究開発を通じた地域課題の解決につながる取組を開始した。

「みえ研究交流サロン」の構成要素として、産学官の研究者の交流を通じた具体的な研究連携の推進を目的に、産学官の研究者の保有する情報・知見等を交換し、研究プロジェクト立案、研究開発の促進、研究成果の活用、新たな研究ニーズ・領域の発掘等について検討する「研究連携グループ」を位置付けている。「研究連携グループ」は、三重県R S P事業で独自に設置した専門部会を引き継いで、三重県R S P事業で構築したネットワークを維持・発展させるものである。

さらに、平成18年度から国等の競争的研究資金を戦略的かつ計画的・持続的に獲得するため、新たに研究連携コーディネータを設置して県内大学や企業へのプロジェクト提案・調整などを行うほか、立案しようとする研究プロジェクトの予備的な調査・

試験をプロジェクト育成試験として実施し、その結果により、さらに効果的な研究方法や体制など研究プロジェクトの練り上げを行う。なお、プロジェクト育成試験は、R S P事業で実施された育成試験を研究プロジェクトの立案に特化させたものであり、三重県R S P事業の一部を引き継ぐものである。

③ 支援センターにおける研究開発コーディネート及び産業支援機能

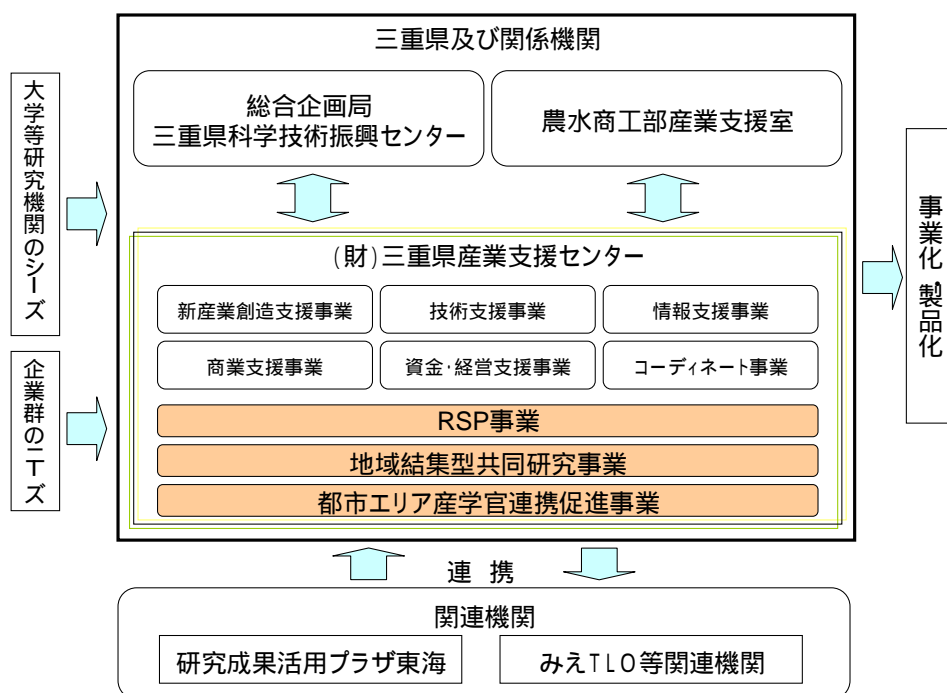
県内企業に、新たな事業活動のヒントやきっかけを掴んでもらうための「みえ新産業創造・交流会」の開催や、より具体的な技術開発を進めるため企業中心の産学官による「サポート研究会」を実施している。サポート研究会の運営にあたっては、活動を支援するテクノサポーターや専門的なアドバイスのできる顧問を配して、事業化に向けてサポートを行っている。

その他、中小企業経営改革チャレンジ支援事業から実用化された商品の販路支援や実用化に向けての問題解決に大学等の研究機関へのマッチングを行っている。

④ 国等の研究開発プロジェクトにおける研究開発コーディネート機能

地域結集型共同研究事業「閉鎖性海域の環境創生プロジェクト（平成15年1月～平成19年12月）」、及び都市エリア事業「ディスプレイ（平成16～18年度）において、それぞれコーディネータ1名を設置し、研究成果の普及や移転、及び研究成果を核にした新たな研究プロジェクトの立案を実施している。

⑤ 三重県の研究開発コーディネート機能の全体像



(2) コーディネート活動の成果の活用方法

三重県R S P事業のコーディネート活動により得られた成果(育成試験及び専門部会)は、三重県の産業施策(クリスタルバレー・メディカルバレー構想)の実現を進める重要な要素となっており、特に研究開発におけるネットワークの基盤となっている。

また、国等の研究プロジェクトである「地域結集型共同研究事業」、「都市エリア産学官連携促進事業」、「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」、「プラザ東海育成研究調査課題」や、三重県が実施する研究促進事業である「新商品・新技術開発支援事業」などへの橋渡しがなされてきたが、今後とも産学官連携による研究プロジェクト立案の場として活用する。

(3) R S P事業に対する人的・財政的支援

① サポート人員の人件費

科学技術コーディネータをサポートする人員の人件費については、地域(三重県、支援センター、地元企業)において負担している。

② 常駐スペース、光熱水費

科学技術コーディネータが常駐しているスペース及び光熱水費については、三重県の補助により本財団が確保している。

③ 本事業遂行に必要となる成果展開施策や共同研究事業などの拡充・充実

支援センターは地域プラットフォームの中核的支援機関であり、R S P事業の成果の展開にあたって、R S P事業開始時から各種申請、起業、経営、販路開拓等への支援を実施している。

④ R S P事業において使用可能な施設など

- ・三重県科技センター総合研究企画部の立地する鈴鹿山麓研究学園都市センターには、多目的ホール、マルチメディア室、研修室、会議室を完備している。
- ・科技センター工業研究部には、開放試験室、試作試験室、商品開発室、電波暗室、恒温高湿試験室等の開放機器が整備されている。また、共同研究にあっては、工業研究部以外の科技センターの研究施設も使用可能にしている。
- ・支援センターが入居している三重県合同ビルには、会議室等があり利用可能である。また、支援センターが管理・運営している「メッセウイングみえ」にも、大規模な展示場、ホール、会議室があり目的に応じて利用可能である。

(4) 今後の展開

県単独事業(「みえ研究交流サロン」、プロジェクト育成試験等)及び支援センターの各種事業において、三重県R S P事業専門部会等により構築されたネットワーク、及び育成試験により実用化・事業化の可能性が確認されたシーズの維持・発展を図る。

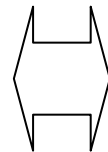
三重県 R S P 事業（育成試験・専門部会）

維持・発展

三重県の研究開発コーディネート機能の全体像

三重県科学技術振興センター

- みえ研究交流サロン
 - ・ コーディネータ等連携会議
 - ・ 研究連携グループ
 - ・ 交流会、アイデア創出サロン
- 研究プロジェクト育成試験
- 研究連携コーディネータ設置



三重県産業支援センター

- みえ新産業創造・交流会
- 中小企業経営改革チャレンジ支援事業
- 三重ハイテクフォーラム
- 知的財産創造担当プロジェクトマネージャー設置
- 地域中小企業産学官連携促進研究開発事業

大学等の研究機関

県内企業・組合・
個人等の事業者

研究プロジェクト提案、競争的研究資金応募、共同研究実施など

3. 連携拠点機関関連事項

(1) 連携拠点機関で行なっている「研究開発コーディネート活動」について

連携拠点機関となっている当財団では、三重県産業振興の中核的支援機関としての役割と機能を果たすべく、県内で活動する企業経営者や起業家のいかなる悩みや相談にもワンストップで対応できる体制の強化と県・国内外を広範囲に結ぶ情報と人脈のネットワーク構築、県経済を牽引する新産業・ベンチャー企業の創出育成に加え、既存産業の経営革新などを一層促進するための事業展開を図っている。こうした中で R S P 事業は、県内企業と大学等研究機関研究者とのコーディネート活動に関する中心的役割を担っている。

1) 研究開発コーディネート活動と当該活動において R S P の果たしている役割